

令和 7 年度 学校教育の方針

1 育てたい子ども像

「共に生き、未来を創造する子ども」

2 基本方針

子どもたちには、これからの変化の激しい時代を、周囲と手を携え、前向きに切り開いていく能力「生きる力」が求められている。「共に生き、未来を創造する子ども」に必要な「生きる力」を育むという観点から、「知」「徳」「体」の3つを、刈谷という「礎」のなかで、バランスよく伸長させ続けるとともに、全教職員が目目の前の一人一人の子どもに寄り添い、支える姿勢を大切にすることを重視し、重点項目を次のとおり定める。各学校においては、教員一人一人が重点項目の具現化と使命感、責任感、誇りをもって指導できるよう資質向上に努める。

3 小中学校の重点項目

(1) 児童生徒一人一人に応じた支援の充実

ア 子どもたちの変化に敏感に気付くことのできる教職員の育成

- ・ 子どもたちを見る目を磨く、子どもたちの声に傾聴する姿勢を養うなど、教職員の資質向上に向けた取組の推進
- ・ 子どもたちの理解に努め、個に応じた支援の充実

イ 教職員の情報交換を密にした、組織的な対応

- ・ 教職員が相談し合える雰囲気づくりと、定期的な情報交換の場の設定
- ・ 児童生徒のことを共通理解した上で、教職員個々の特性を生かした多様な指導の展開
- ・ いじめや不登校の未然防止、素早く的確な対応

(2) 確かな学力の定着

ア 基礎・基本の確実な習得

①基礎的な知識・技能を習得する

- ・ スモールステップや繰り返しによる学習の実施
- ・ 少人数、T T授業によるきめ細やかな指導の実施
- ・ 特別支援教育の充実

②言語に関する能力を高める

- ・ 自分の考えや感じ取ったことをまとめる力を身に付ける場の設定
- ・ 自分の考えを伝える、仲間の意見を聴く場の設定
- ・ 外国人児童生徒に対する教育の充実

イ 学ぶ力・学ぶ心の育成

①主体的に学びに向かう

- ・ 一人一人に合った教材・教具の開発
- ・ 子どもたちの学習意欲を引き出す単元の構想

②「分かった」「できた」を実感する

- ・ 各教科・領域における問題解決学習の実施
- ・ 専門的な知識を有する教員による小学校教科担任制の実施

ウ 科学的な思考の育成

①自然の事物や現象に対して、興味・関心を高める

- ・ 観察や実験を中心とした探究型学習過程の構想
- ・ 夢と学びの科学体験館でのプラネタリウム見学やラボ科学体験の実施
- ・ 環境教育の充実

②自然の事物や現象を分析的、総合的に考察し、筋道を立てて考える

- ・ 指導内容に応じた、タブレット、電子黒板など I C T 機器の効果的な活用
- ・ 子どもたちの研究成果を発表できる理科学研究発表会の開催
- ・ 企業などの専門家を招聘した学習会の開催

(3) 豊かな心の育成

ア 自己肯定感・自己有用感の醸成

①自分の存在の尊さを理解し、自分のがんばりや取組のよさを認知する

- ・ 一人一人に合った居場所づくり
- ・ 自己実現を図るための目標設定と自己評価の実施
- ・ Q－U検査の実施と活用

②生活の中で、自分が役に立っていることを実感する

- ・ 役割や取組を認め合う機会の充実
- ・ 職場体験活動、保育体験学習、福祉実践教室の実施
- ・ 校内外のボランティア活動の場の充実

イ いのちを大切に作る心や思いやりの心の育成

①自他を尊重する心情・態度と道徳的な判断力を身に付ける

- ・ 教育活動全体を通じて行う道徳教育の推進
- ・ 多様な価値観に触れる機会の充実
- ・ 生徒会サミットの開催

②防災意識をもつとともに、被災地復興に向けて自分たちができることを考える

- ・ 防災・減災教育の実施
- ・ 学校安全マニュアルに基づいた避難訓練の実施
- ・ 被災地への募金活動や物資の支援など、被災地支援の実施

ウ 創造性・感受性・表現力の育成

①感性が磨かれ、豊かな芸術性や自然を愛する心を身に付ける

- ・ 合唱コンクール、小中音楽会、観劇会、刈谷っ子ギャラリーなどの文化芸術活動の開催
- ・ 地域の自然と触れ合う学習活動の充実

②創造力や言語力が高まり、感情を豊かに表現する

- ・ 体験活動の充実
- ・ 読書指導の実施、司書による学校図書館の充実
- ・ ボランティアによる読み聞かせ、ストーリーテリングの実施

(4) 健やかな身体づくり

ア 運動に親しむ態度の育成

①自分の思うように身体を動かす楽しさを味わう

- ・ 体力向上プロジェクトの推進(p. 11 参照)
- ・ 小学校における外遊び検定の実施
- ・ 小中学校における体づくり運動の充実

イ 食育の推進

①食に対する意識を向上させ、食に関する知識を得る

- ・ 食育推進プロジェクトの継続的な実施(p. 12 参照)
- ・ 食育キャラクター「食まるファイブ」の活用
- ・ 食に関する情報を掲載した食まるだよりの発行
- ・ 給食センターの見学や栄養教諭による食の指導の充実

②地域の食材や食文化、食料の生産などに関わる人々への興味・関心を高める

- ・ 地元農家や企業などと連携した学習の実施
- ・ 一人一鉢や教材園で育てた野菜などを食する体験の実施

ウ 健康の増進

①自分の健康状態に興味をもち、望ましい生活習慣を確立する

- ・ 学校保健会、医師会などと連携した保健教育や健康づくりの充実
- ・ 保健主事を核にした学校保健委員会の充実
- ・ 早寝・早起き・朝ごはんなどの生活習慣の定着

- ・ 消毒・手洗いなどの感染症対策の徹底

②心のケアをし、心の健康を保つ

- ・ 教育相談や生活アンケートによる子どもの心の状態の把握
- ・ スクールカウンセラー、スクール・ほっと・アシスタント、心の教室相談員などによる子どもの心のケア
- ・ 校内の相談体制の充実やスクールソーシャルワーカーの活用、各種相談機関との連携

(5) 地域から信頼される安心・安全な学校づくり

ア 教育環境の整備・充実

- ・ 感染症などに対応した持続的な学校運営
- ・ 就学援助、私学助成金の充実
- ・ 教職員の働き方改革の推進

イ 地域とともに子どもを見守る安心・安全な学校づくり

- ・ スクールガードによる見守り、希望者などによる学校ボランティア活動の推進
- ・ 学校現場への積極的な外部人材の活用
- ・ 地域懇談会等、学校と地域が教育活動の情報共有ができる場の設定
- ・ 地域学校協働活動の推進